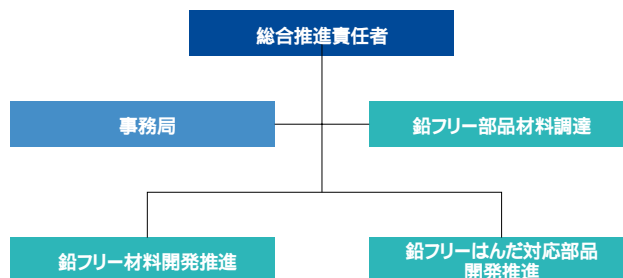


鉛フリー化

鉛フリープロジェクト

鉛の摂取は、神経障害などを引き起こす有害な物質として知られています。近年、雨の酸性化が急速に進むことで、廃棄物中の鉛がこの酸性雨によって溶解し、地下水及び河川を経過して飲料水になることが懸念されています。TDKはこうした状況を考え、鉛使用の継続的削減を目的に1999年5月に鉛フリープロジェクトを発足し、全社的に組織化しました。

鉛フリープロジェクト推進体制

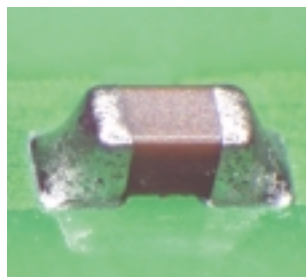


はんだの鉛フリー化

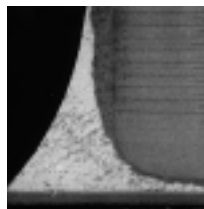
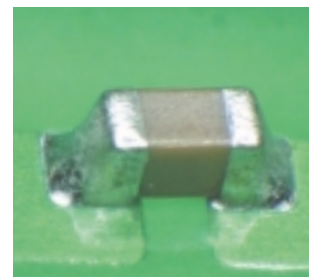
鉛フリーはんだは、Sn-Pb共晶はんだよりも熔融温度が高いため、製品の耐熱性の向上が必要であったり、鉛フリーはんだとの高い接合信頼性を得るため部品端子の鉛フリー化が必要になります。TDKはこれらの技術開発を2001年3月までに完了し2002年3月までに承認活動と量産体制を完了する予定です。また同時に、TDK製品の鉛フリーはんだも推進し2002年3月までに承認活動と量産体制を完了する予定です。

TDKではこれらを「鉛フリーはんだに対応した電子部品の開発」と「鉛フリーはんだの採用」と義務付け、2001年4月以降目標値を満足できない製品は製品アセスメントシステムでの承認が得られず、製品化できない仕組みとしました。

鉛フリーはんだ



鉛はんだ



鉛フリーはんだ接合部の断面写真

素材の鉛フリー化

TDKでは、鉛を使わない誘電体材料で大容量の積層セラミックコンデンサを製品化したり、世界初の鉛フリーセラミックレゾネータの開発に取り組んできました。今後も鉛フリー

素材の開発を強化し、TDKの製品から鉛を継続的に削減してまいります。